

沖縄セミナー・2011/5～2012/3

プレ企画：沖縄と東北が、そして、私・たちが一つに連なる声の蜂起を！ ——日本国家—社会の構成的解体へ向けて

1. はじめに

この列島をおおうコンフォーミズム——「がんばれ！日本」——「災害資本主義」を打倒せよ？！——「不可能なものの胸ぐら」をつかみ、社会を隆起させる声の蜂起を

2. 日本国家宛：辺野古への基地建設を許さない実行委員会要請書（2011.3.29）（*1）

沖縄セミナー「連帯を模索する：沖縄の『自己決定権』樹立への挑戦を受けとめて」（*2）——この驚天動地に、私・たちはなにをなすべきか？——辺野古からの日本国家宛：要請書が突きつけるもの

3. 沖縄と東北が、そして、私・たちが一つに連なる声の蜂起を

(1) 「高度必需品宣言」（*3）

——「脱出の道がないということではなく、すべて老朽化した道を捨て去る時期が来たと言うこと……である」

(2) 仲里 効「遠き声の流紋へ——ネシアと叛乱の結界——」（*4）

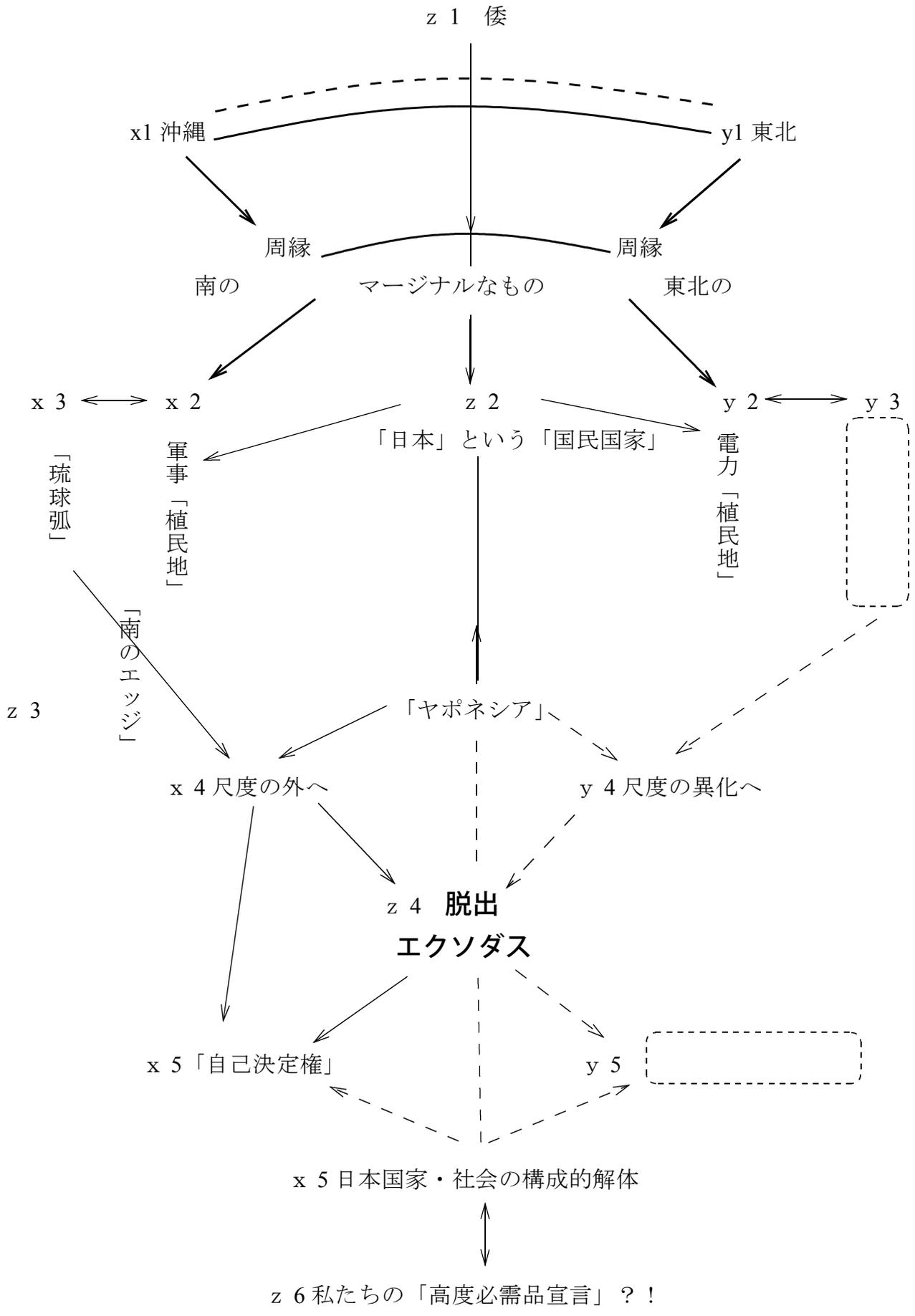
——「アンティューユは遠い、そして近い。」／「『高度必需品』という考えを通して詩的なるものへの自覚を呼びかける、その先に私は〈独立〉を新しくしていく、〈独立〉を発明していく構えを読み取る。」／「『高度必需品宣言』の詩的なるもののポストコロニアルの流紋に、亜熱帯の地で焼かれたユートピアを投擲する。」

(3) 岡本恵徳「『ヤポネシア論』の輪郭」（*5）

——「琉球の島々と東北との間に、何か類似の気分が流れていることに気づきだした。……そして東北の背後には、……アイヌ世界が……うずくまっている……」（*6）／「『東北』の背後には『アイヌ』を……を見通す立場に立ってしまえば、『琉球弧』と『東北』を同時に疎外する存在としての『倭』についての言及が出てくるのは、それほど遠いことではない」

(4) 沖縄と東北が、そして、私・たちが一つに連なる声のありどころ？

——「リャンナジ」（クレオール語の名詞）＝「連帯していなかったすべてのものを結び合わせ、再結集させ、結びつけ、繋ぎ、中継する」こと。——P.2へ



〈註〉

- * 1 要請書——「菅直人首相・北沢俊美防衛相・松沢剛明外相宛 「日本政府は、『思いやり予算』などすべての米軍駐留費と辺野古新基地建設関連費用を、東日本大震災の被災者救援と復興に振り向けよ！」 → 資料・1
- * 2 『沖縄セミナー』リーフ参照 → 資料・2
- * 3 雑誌「思想」（岩波書店・2010/9）所収——同「宣言」訳者による「フランス海外県ゼネストの史的背景と『高度必需品』の思想」（同上所収）も参照
- * 4 同上「思想」所収——「高度必需品宣言」を受けて、沖縄の「自己決定権」樹立への挑戦の世界的共振性を、明示している。」
- * 5 1990年・沖縄タイムズ社刊。——なお、島尾「ヤポネシア論」への、沖縄における共鳴と異和については、他に例えば、仲里効「ネーションとネシアの汀」（雑誌「ユリイカ」1998年 No.407）、同「島尾敏雄〈ヤポネシア論〉の射程」（2001/5/25）
- * 6 島尾敏雄「琉球弧の視点から」（1967年）——註5の岡本から。

エクソダス2011・富山 企画 part II

リャンナジ・日本（国家－社会）の構成的解体を考える

再見 森崎 東 監督作品「生きてるうちが花なのよ

死んだらおしまいよ党宣言」（1985）

● 5月8日（日）午後1：00～4：00

● サンフォルテ 306